

2022年度事業実績

(2022年4月1日～2023年3月31日)

2022年度においても昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染予防対策を充分に取り、計画した全ての事業を実施することができた。具体的には、音楽会の開催、姫路市内の小学校へ図書寄贈、実業団陸上選手による一日陸上教室の開催等である。それは次代を担う子ども達の健全な心身の育成に資する為であり、芸術へのふれあいの場を創出するものであり、また学校図書館の一層の活性化に働きかけるものであり、更には、参加した小中学生の健康増進と競技力向上に貢献することで、地域スポーツの振興を図ることを目的とするものである。また、文化講演会の開催は、生涯学習に係る機会の提供を図ることで、地域文化の振興に少なからず寄与することを目的としている。

1. 芸術活動の推進及び援助に関する事業

◇◆ ニュー・イヤーズ・コンサートの主催 ◇◆

- ①運営費用 964千円
- ②開催日 2023年1月8日(日)
- ③開催場所 パルナソスホール
- ④主催 (公財)山陽特殊製鋼文化振興財団
姫路市教育委員会
- ⑤後援 神戸新聞社
- ⑥実施内容



児童・生徒の皆さんが、音楽活動を通して、豊かな人格形成の一助になることを願い、熱心に音楽活動を続けている市内の小・中学校に対し、本格的音楽ホールで発表の場を提供し、音楽活動を支援すべく、姫路市教育委員会と共催で開催した。

今回で第28回目を迎え、中学生による箏曲演奏で幕を開け、市内の小学校1校と中学校2校、更には姫路市児童合唱団が合唱した他、吹奏楽で市内の中学校1校が合同出演した。また、招待校として市川町立市川中学校が出演した。出場者数は約150名。

今回で2回目となる箏曲演奏では、豊富小中学校が「GRADATION」で爽やかな琴の音を披露し、合唱演奏校は、「いのちの名前」、「アイノカタチ」、「生きる」など、各校とも新型コロナを吹き飛ばすべく、力強い歌声で2曲ずつ披露した。吹奏楽では朝日中学校が、コンサート・マーチ「テイク・オフⅡ」を軽快に演奏した。

招待校の市川町立市川中学校音楽総合部は唱歌「風がうたう」と、「風の旅」を情感たっぷりに聞かせた。

また、模範演奏として、矢野仁美さんのピアノ伴奏で、テノールの岡成秀樹さんによる「歌劇『リゴレット』より 女心の歌」、ソプラノの田中里奈さんによる「歌劇『ジャンニ・スキッキ』より 私のお父さん」の独唱と、二人による二重唱「歌劇『リゴレット』より ジルダと公爵による二重唱」が披露された。

2. スポーツ活動の推進及び援助に関する事業

◇◆ 実業団陸上競技部による陸上教室の主催 ◇◆

- ①運営費用 482千円
- ②開催日 2023年3月28日(火)
- ③開催場所 MIYACOCO みなとドーム
- ④主催 (公財)山陽特殊製鋼文化振興財団
- ⑤共催 姫路市
- ⑥後援 神戸新聞
- ⑦実施内容



姫路市内の小学校4年生から中学校3年生を対象とする「実業団陸上選手による一日陸上教室」を開催し、参加者の健康増進と競技力向上に貢献することで、地域スポーツの振興を図ることを目的とするもので、今回が第7回目の開催となり、小学生男女96名(前年度は125名)が午前の部と午後の部に分かれてそれぞれ参加した。

教室では、山陽特殊製鋼陸上競技部の現役選手から、ストレッチから走り方のコツなど、6種類のワークアウトレッスンを受け、最後に、参加した子どもたち全員が6チームに分かれて、1周約600mのミニ駅伝を行い、子どもたちの懸命な走りで会場は大いに盛り上がった。

3. 文化の普及及び啓発に関する事業

◇◆ 市内小学校へ図書寄贈 ◇◆

- ①寄贈内容 474冊 723千円(目録代含む)
- ②寄贈先 23校(別紙ご参照)
- ③寄贈時期 2022年10月
- ④実施内容



子どもたちが本を通じて多くの知識を吸収し、豊かな人間性を身に付け、将来の人間形成の礎となる場を提供すべく、子どもたちにとっての一番身近な図書館である学校図書館の一層の活性化に向け、姫路市内の小学校に希望図書を寄贈するもので、寄贈校23校を代表し、当財団理事長から、手柄小・満田^{みつだ}誠^{まこと}校長に対し、11/22(火)に寄贈図書の目録贈呈を行った。

- ⑤閲覧状況 寄贈図書活用状況報告書(別紙“手柄小学校”提出分ご参照)

◇◆ 文化講演会の主催 ◇◆

- ①運営費用 1,077 千円
- ②開催時期 2022 年 5 月 25 日 (水)
- ③開催場所 アクリエひめじ 中ホール
- ④開催内容

◎演題『

◎講師 湯浅 景元 氏

(中京大学名誉教授 医学博士)



⑤実施内容

講演会には平日の昼間にもかかわらず、約350名の方々が参加され、盛会裡に開催することができた。

演題『一流スポーツ選手から学ぶ健康法 健康づくりのための運動の大切さ』は、高齢化が益々進む日本において、中高年あるいは壮年に当たる殆どの聴講者にとって、その健康法をどのように解析、ご指導するのか、講演前から非常に興味のある題材だったが、これまで思い込んでいた認識とは異なった解説で、大変興味深く聴講することができた。

とりわけ柔軟性の話は、関節が緩んでいることと、筋肉の柔軟性を間違って認識していたことに気づかされ、講演を聴くまでは開脚ストレッチや肩甲骨のストレッチなどが体の柔軟性に繋がり、そのことがそのまま体の若さや健康を維持することの秘訣だと思い込んでいたが、そうではないことがわかった。弊社も実業団の陸上部を抱えており、健康面については世間一般の方々より少なからずとも知識は持ち合わせていると思っていたが、まさしく井の中の蛙だった。

中高年世代の多くは、科学的な分析や理論よりも根性論とでもいうか、昔の指導者達から、痛ければ痛いほど、辛ければ辛いほど効果は大きく、筋力や柔軟性、機敏性も身に付くと教えられ、そのことを信じて疑わずに過ごしてきたが、正にスポ根世代から、現在の子供達への指導を見ていると隔世の念を禁じ得ない思いです。また、講演中に配られた資料の中から指導された運動やストレッチについても、「これだけでいいんです」とか「これで充分なんです」といわれると

「えっ！これだけでいいの？」と思えることが多く、まさしく目から鱗状態だった。我々も湯浅先生同様、死が迎えに来る日迄、自分の足で買い物に行き、自分で着替え、自分で足の爪が切れるような体づくりに留意していきたいとつくづく思える講演だった。